府立鳳高等学校

学校経営推進費　評価報告書（最終）

標記について、下記のとおり提出します。

１．事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	英語教育の充実
評価指標	・GTEC for Students　　・英語検定　　・TOEFL iBTコンプリートプラクティステスト ・センター試験平均点 ・授業アンケート
計画名	アクティブラーニング推進のための『フェニックスプロジェクト』 （４技能統合型授業の完成に向けて）

２．事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の中期的目標	２　社会を生き抜く人間力を育成する。 （２）　発信力、傾聴力を備えたコミュニケーション力を身につけさせる。 ３　疑問を持ち、その解決に向けて考え抜く力を育てる。 （３）　十分な知識を基盤として、課題を探求する姿勢を育てる。
事業目標	１　ICT機器を活用し、『使える英語プロジェクト』で進めてきた『四技能統合型授業』を完成させる。 ２　従来の一方向的な授業から完全脱却し、音声・画像、グループワーク等を活用した立体的な授業を展開し、生徒が主体的に学習する機会を提供する。 ３　オーサリングクラウドツールを用いた学習システムを導入し、教材を作成することで、個々に応じた学習内容を提供する。 ４　教室内と教室外でのICT活用を連携させ、自学自習の姿勢を育成し、反転学習へのステップとする。 ５　能動的なリスニング演習を通して、センター試験リスニング問題を攻略する力をつける。 ６　実践の成果を広く発信し、高校英語教育におけるパイロット的役割を果たす。
整備した設備・物品	Voice Script Synchronize(VSS) オーサリングソフトライセンス　教師用　生徒用 教室吊り下げプロジェクター　16台 Wifi Station　16台
取組みの主担・実施者	主担：アクティブラーニング推進フェニックスプロジェクトチーム　VSS教材開発チーム 実施者：第２,３学年英語担当
本年度の取組内容	○「コミュニケーション英語I・II」 ①『アクティブラーニング』をめざし、『４技能統合型』授業を多くの科目で無理なく展開する。 ・ジグソー法で高い次元の思考（批判的読解：目的、意見、常識、経験、矛盾、説明、推測、具体、抽象、図表）を促進する。 ・ジグソー法などでの協働学習と思考を使う授業をプロジェクターで支援 ○反転授業への模索 ・生徒の、授業の予習、反復練習、復習等を家庭で行うためのICT活用法の研究 ○具体的スケジュール 授業コンテンツの検討と計画（～４月）　授業実践スタート（４月）　公開授業・実践発表と研究協議（11～12月） GTEC for Students（１月）　センター試験（１月）　授業アンケート実施・結果分析（２月） 取組み状況に対する評価（２月）　総括と次年度の取組みの検討・計画（３月）
成果の検証方法と評価指標	GTEC for Students ２年次１学期と３学期で３技能を評価、伸びを検証 320名　Grade４以上を60% センター英語得点平均　全国平均+７点 学校教育自己診断　授業への集中80%
自己評価	○GTEC　Grad 4 以上 1年生　合計 455.5 G6(０) G5(15) G4(179) G3(99) G2(８)G1(１) /303名 64%（◎） 2年生　合計 476.2 G6(１) G5(53) G4(183) G3(63) G2(６)G1(１) /307名 77.2%（◎） 3年生選択クラス　合計 458.5 G6(１) G5(１) G4(８) G3(６) G2(１) /17名 58.8%（○） CBTスピーキング　G5(１) G4(２) G3(８) G2(４)/15名 ○センター試験 筆記136.8/125.5　リスニング23.1/23.05 合計159.9/148.55　+11.35（◎） ○授業への集中(全校平均)　79%（○） ○スピーチコンテスト外部よりの参観者15名（◎） ○反転授業　のベダウンロード数　2293名（○） ○フェニックスプロジェクト公開授業　参加者56名（◎）
事業のまとめ	【成果（できるようになったこと）】 ○コミュニケーション英語 ・繰り返し読解をしながら、音読練習を経て、ペアでの英問英答や再話までの授業を英語科として共有できるようになった。 ・各学期に一つ以上、アクティブラーニングのジグソー法を実施できるようになった。 ・即興型ディベートを実施できた。（１年時に１回、２年次に２回） ○英語表現 ・音声でのやりとりを経たグループ活動を文法学習に組み込むことができた。 ・基本例文の定着などの基礎学習とミニスピーチをバランスよく展開できた。 ○スピーチコンテスト ・モデルスピーチを教室で視聴した。 ・テーマ選び、マッピング、構想、原稿作成の段階でグループワークを活用し、アクティブラーニングとした。 ・原稿のPC入力、PCでの添削、TTSでの音声化でICTの有効活用ができた。 ・ほぼ全員が200語程度で、序論、本論、結論、をわかりやすく、社会とつなげる内容のスピーチを行った。 Can-do 達成 ○英語検定試験　２級17名 準２級 56名 ３級 96名 ○高次思考力・批判的読解調査　(10の項目でよく使う ５ーまったく使わない１の５段階回答) 事前 2.6「あまり使わない」→　事後 3.3「ときどき使う」 ○語彙サイズ　事前2,490語　事後2829語　増加339語　２年後期　619語/3,000語レベル 目標Can-do 500語を達成 ○読解スピード（GTECによる２年次生の推移）１分間80語以上　１年次 24% → ２年次 52% 以上のように、アクティブラーニングが進み、オーストラリアの高校生受け入れも、普段の授業に自然に加わることができた。 【課題】 ・軌道にのった協働学習での「相互的」学び、批判的読解を通しての「深い」学びを、「主体的」学びへどう導くか ・英語を使う授業構築のためさらなるICTの有効活用法の研究